The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	祖父母世代における子育て支援意欲と支援への問題意識
Author(s)	田渕, 恵; 中原, 純
Citation	生老病死の行動科学. 2007, 12, p. 13-22
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/4325
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

原著論文

祖父母世代における子育て支援意欲と支援への問題意識
－祖父世代と祖母世代の差異に着目して－

Motivation and problem consciousness in support for child-raising by grandparental generation
: Differences between grandfather generation and grandmother generation

（大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程）　田　渕　　恵
（大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程）　中　原　　純

Abstract

The purpose of this study was to reveal the motivation of grandparental generations for the support in child-raising and differences of views on the support between grandfathers and grandmothers, in order to encourage grandparental generations to support in child-raising in their communities. The motivation for the support in child-raising and their problem consciousness in support were investigated. Participants were 175 males and 209 females（M of age=66.94±7.68）. Results showed that grandmothers are more highly motivated in support than grandfathers. Also, grandmothers are more eager to support using their experiences in child-raising. As the problems of support, grandfathers regarded the discrepancy between parents and grandparents as a barrier to the support of child-raising. More empirical studies are needed for encouraging grandparental generation to support in child-raising.

Key word : support in child-raising, motivation for support, grandparental generation, differences between grandfathers and grandmothers

Ⅰ　問題と目的

現在の子育ては、かつての子育てとは異なる側面で様々な困難を抱えている。ひとつに、母親の「孤独な子育て」（大日向, 2006 ; 中野, 2005）がある。変遷する社会的状況を背景に、地域内、あるいは家庭内において、親世代の子育ての孤立が問題となっている（飯田・菅井, 2000 ; 武田, 2002）。地域においては、地域コミュニティの崩壊による人間関係の希薄化から、かつてのような地域が一体となった子育てのシステムを利用することができなくなってきている（飯田・菅井, 2000 ; 武田, 2002）。また家庭内でも、核家族の増加により、祖父母世代の子育てに対する積極的な関与が望めなくなったと指摘されている。日本では、他国と比較して３世代同居の比率が高いとはいえ、時系列的に見れば、そのような世帯の割合は減少している（須田, 2003）。従って、かつては家庭内で親世代の子育てを積極的に支援していた実父母あるいは義理父母が遠方に暮らしているために、助けを求めることが難しくなってきている。武田（2002）は、こうした母親の子育ての孤立を防ぐため、かつて地域に根付いていた子育てシステムを見直し、社会全体で子どもを育てるという考え方の重要性を提唱している。本研究では、こうした考え方に基づき、近年提唱されている、家庭内や地域での祖父母世代による子育て支

援に注目する。

Fischer（1983）によれば、「祖父母」という語の用法は以下の 4 つの次元に区分される。1 つ目には高齢の男性あるいは女性といった「高齢者」としての意味、2 つ目には親や曽祖父などのように血縁における世代を表現するための用法、そして 3 つ目には家族の中における立場を、4 つ目には社会における立場を現すものがある。祖父母世代の子育て支援について論じる際、「祖父母」という語を、家族を基本単位とした血縁関係を基とするか、社会における立場を表すものとするかでは、支援の捉え方が大きく異なってくる。血縁関係を基とした支援研究は、家族関係の研究の中で多く取り上げられている。1980年以降のアメリカでは、片親家庭の増加や未婚の10代の母親の増加が社会問題となり、それと同時に祖父母世代による孫の養育が急増した（Hayslip & Goldberg, 2000）。以来、親世代に代わって子育てを行う祖父母世代の抑うつ症状の増加（Minlker, Fuller-Thompson, Miller & Driver, 1997）や、責任の増大に伴う精神的健康への否定的な影響（Pruchno＆McKenney, 2002）が指摘されてきた。日本においては1980年代以降、家族における世代間関係について注目され始め、孫の発達や孫の親に対する支援という視点から、祖父母世代の子育てにおける影響力、役割に関する研究が増加している（落合, 1989; 高橋, 1995）。1992年に専業主婦世帯を共働き世帯が逆転するという社会状況の中で（総務省, 2000）、祖父母世代に対する家庭内の子育ての責任が増大し、家庭内で子育て支援をする祖父母世代の問題が注目され始めた。親世代との子育て方針の違いと祖父母世代の抑うつ症状との関連（宮中, 松岡, 西田, 岩脇, 中谷, 中島, 1995 ; 北村, 1999）や、子育てに伴う祖父母世代自身の身体的な疲れと心理的負担（北村, 1999）が報告されている。また、血縁関係の母娘が一体となって子育てを行うことで、両者の関係が癒着の方向に向かい、子育て環境が家庭内の母娘関係の中だけに閉ざされてしまうとの指摘もある（大日向, 2006）。以上のことから、家族関係、血縁関係のみに規定される、祖父母世代の子育て支援を進めることへの限界が感じられる。それを踏まえ、血縁関係に限らない「社会における立場」（Fischer, 1983）としての祖父母世代の支援が、地域ネットワークの研究において近年提唱されるようになった。家庭内の祖父母世代の子育て支援ストレスを軽減するため、地域のサービスとして祖父母世代がかかわるという視点が必要であるとする声が高まってきている（Gerard, Landry & Roe, 2006）。社会で子育てをするという考え方を基に、シニアボランティアとして地域の子育て支援に関わっている祖父母世代も見られるようになった（Bowen, Andersen & Urban, 2000）。子育ては家庭で行うという従来までの考え方に、社会で子どもを育てる視点を取り入れるためにも、血縁関係を超えたところでの、地域における祖父母世代の子育て支援を積極的に進めていく必要があると考える。従って本研究では、社会的立場を表すものとして「祖父母」という語を定義し、地域の子育て支援の一環として祖父母世代の子育て支援を捉える視点を用いる。また、血縁関係に限らないため、実際に現在祖父母であることは問わず、祖父母となりうる年齢層の人々を「祖父母世代」と本研究では表すこととする。

子育てにおける社会的支援の一つとしての、祖父母世代の活躍は、近年様々な地域で見られるようになってきた（清水, 2006）。清水(2006)は、子育て支援施設などにおいて祖父母世代が積極的に支援に関わることが、親世代にとって大きな効果となっていることを報告している。また中西・岩堂（2004）は、母親どうしがかかわる場においては母親の対人態度傾向により、仲間作りに積極的に参加できない母親がいることを指摘し、こうした母親たちにとって、地域の祖父母世代が参加する異年齢子育てグループの設置が、集団の閉塞性を打開するという点で

重要な役割を果たすことを指摘している。「子育て支援等に関する調査研究」（厚生労働省, 2003）では、子育ての相談相手の条件として「子育ての経験があること」が専門的な知識よりも多く望まれており、子育て経験者としての祖父母世代が、支援者として親世代に求められていることが明らかとなった。祖父母世代の子育て支援を進めるためには、支援に対する親世代側のニーズと祖父母世代側の意欲が共に高く、両世代に求められることが期待される。しかし、地域における祖父母世代の子育て支援の取り組みは、地域差が大きく、親世代が子育て支援の一つの選択肢として利用できる体制にはなっていない地域もまだ多い。従って、祖父母世代の子育て支援を取り上げた研究も数少ないのが現状である。

また、性別に注目すると、家庭内での女性の個人化（神谷, 菊池, 2004）により、近年では夫が育児に参加することの重要性が強調されている。しかし、内閣府「国民生活白書」（内閣府, 2002）によれば、日本社会は男性の育児休業取得率がわずか0.33%に過ぎず、女性の育児負担が他国と比較して明らかに大きいとされている。従って、近年子育てに対する男女共同参画が提唱されているにも関わらず、性役割分業体制の確立以来、子育ての大半を母親が担っていることが伺える（大日向, 2005）。こうした背景から、祖父母世代の子育て支援においても、女性のみが対象となることが多い。厚生労働省は、「少子化対策として、高齢者に短期の仕事を提供する全国のシルバー人材センター」を通じ、親世代への子育て支援のために高齢者を派遣する事業を計画している（朝日新聞社, 2002）が、その背景には「高齢者の経験・知識を活用」することへの期待がある。子育てに関する知識や技術が不十分なまま母親になるものが増加している（八重樫, 江草, 季, 小河, 渡邊, 2003）中で、祖父母世代でもとりわけ子育て経験のある祖母の、子育てについての知識に期待が寄せられている。また子育て経験がなくても、子育て支援に関わる祖父母世代の多くが女性であるということ（清水, 2006）から、男性を対象とした研究はほとんどない。一方で、男性の育児を促進する子育て支援の必要性を提唱し、祖父の地域子育て支援を行っている地域もあるが（金山, 2005）、まだ数少ないのが現状である。男性が子育ての場に参加することは、子育てが女性のみの負担となることを避けるためのみならず、子どもに社会の規範やルールを示していくなど、子どもの社会化の上で大きな機能を果たす（平田, 2003）。従って、親世代の子育ての場にその支援として祖父世代が関わることは、祖母世代のかかわりとは異なる効果を期待できる。女性の方が子育て支援に積極的に関わっているといった現状から、子育て支援意欲や子育てに対する問題意識が性別によって大きく異なってくることが予想されるが、祖父と祖母を対象にそれらの具体的な内容についての違いを検討した研究はみられない。そこで本研究では、祖父と祖母に着目し、子育てに対する支援意欲の違いを実態的に捉えることから、支援したい内容、子育て支援を行う際の問題意識の違いを、明らかにすることを試みる。なお、本研究では、子育て支援の「子ども」を、「6歳までの未就学児」と定義した。これは、6 歳までの未就学児は、子育て期間で特に養育者である親と接する時間が多いと考えられるためである。

Ⅱ　方　法

1．調査手続きおよび調査対象

A 県在住の40代から80代男女838名を対象に、平成17年11月上旬に、無記名による質問紙を郵送配布し、平成18年 1 月上旬までに回収した。対象者は、県内の女性センター実施事業参加者、民生児童委員、子育て支援センター事業参加者、保育園児の家族などであり、各団体を通

じて返送用封筒を同封の上郵送した。その結果回収された、祖父母世代391名分（平均年齢および標準偏差66.94±7.68）（回収率46.66％）を、分析対象とした。男性（祖父世代）は175名（平均年齢および標準偏差69.09±4.98）、女性（祖母世代）は216名（平均年齢および標準偏差65.04±7.06）であった。

２．調査内容

２‐１．基本属性

対象者自身の基本属性に関する質問として、性別・年齢・居住市町村・世帯構成・就労・ボランティア活動の参加状況・子どもの有無・子育て経験について、回答を求めた。世帯構成については、「１人世帯」「夫婦２人世帯」「２世代世帯」「３世代世帯（実娘同居）」「３世代世帯（義娘同居）」「その他」の６項目、就労については、「専業主婦（夫）」「フルタイム」「パート・アルバイト」「自営業」「無職」「その他」の６項目を、選択肢として設定した。ボランティア活動の参加状況については、「参加したことがなく、関心がない」「参加したことはないが関心はある」「１度か２度参加したことがある」「不定期に何度も参加した」「定期的に参加している」「その他」の６項目を設定した。

２‐２．子育て支援全般への支援意欲

血縁関係に限らない子育て支援に、どの程度参加したいと考えているかについて、回答を求めた。子育て支援の「子ども」は、「６歳までの未就学児」と質問紙の中で定義した。「現在子育てを行っている親世代に対して、子育て支援に参加したいと思いますか」という問いについて、「1. 積極的に参加したい」、「2. できる限り参加したい」、「3. 少し参加したい」、「4. 参加したくない」の４選択肢から単一回答を求めた。

２‐３．子育て支援内容別の支援意欲

現在子育てを行っている親世代に対し、どのような側面で支援したいのか、具体的な支援内容について、回答を求めた。質問項目として、アンケート調査「子育てに関する世代間のズレについて」（中国新聞情報文化センター，2004）を参考に、祖父母世代独自の支援として「子育ての仕方についてのアドバイス」「子育てについての悩み相談」「祖父母世代文化の、子どもへの伝達」「子育てに関する昔の人の知恵」の４項目を設定した。また、親の代わりとしての支援として、「子どもを預かって一緒に遊ぶこと」の1項目を設定した。更に、物質的な支援側面について独自に作成した、「子育てに必要なモノ（おんぶひも、ベビーカーなど）の支援」「経済的な支援」の項目を加え、全７項目を設定した。「1. まったく行いたくない」、「2. あまり行いたくない」、「3. どちらともいえない」、「4. やや行いたい」、「5. 大変行いたい」の５件法で回答を求めた。

２‐４．子育て支援の際に起こりうる問題

現在子育てを行っている親世代に対し、支援としてかかわる際にどのようなことが問題となると思うかについて、回答を求めた。質問項目として、アンケート調査「子育てに関する世代間のズレについて」（中国新聞情報文化センター，2004）を参考に、「1. 親世代とは育児方針が違う」、「2. 基本的に親世代の考えで子どもを育てるべきだ」、「3. 意見を聞き入れてもらえない」、「4. 親世代と意見が合わない」、「5. 今と昔では子育ての仕方が違う」、「6. 子どもを預かるだけの体力に自信がない」、「7. 子どもを預かるだけの健康に自信がない」の７項目を設定し、「1. まったくそう思わない」、「2. あまりそう思わない」、「3. どちらともいえない」、「4.

ややそう思う」、「5.大変そう思う」の５件法で回答を求めた。

Ⅲ　結　果

1. 対象者の基本属性

Table 1 に対象者の基本属性を示す。祖父世代において、世帯構成は、「１人世帯」５名（2.9％）、「夫婦２人世帯」114名（65.1％）、「２世代の世帯」26名（14.9％）、「実娘と同居の３世代世帯」７名（4.0％）、「義娘と同居の３世代世帯」２名（1.1％）、「その他」16名（9.1％）であった。就労については、「専業主夫」４名（2.3％）、「フルタイム」３名（1.7％）、「パートタイム・アルバイト」６名（3.4％）、「自営業」８名（4.6％）、「無職」145名（82.9％）、「その他」８名（4.6％）であった。ボランティアについては、「関心がなく、参加したことがない」２名（1.1％）、「関心はあるが参加したことはない」41名（23.4％）、「１度か２度参加したことがある」35名（20.0％）、「不定期だが何度も参加した」45名（25.7％）、「定期的に参加している」46名（26.3％）、「その他」４名（2.3％）であった。子どもの有無については、実子がいる人166名（94.9％）、いない人７名（4.0％）であった。

祖母世代において、世帯構成は、「１人世帯」28名（13.0％）、「夫婦２人世帯」98名（45.4％）、「２世代の世帯」44名（20.4％）、「実娘と同居の３世代世帯」13名（6.0％）、「義娘と同居の３世代世帯」７名（3.2％）、「その他」24名（11.1％）であった。就労については、「専業主婦」105名（48.6％）、「フルタイム」15名（6.9％）、「パートタイム・アルバイト」22名（10.2％）、「自

Table 1　対象者の基本属性

		祖父(n=175)		祖母(n=216)	
	項目	人数	%	人数	%
世帯構成	1人世帯	5	2.9	28	13.0
	夫婦2人世帯	114	65.1	98	45.4
	2世代世帯	26	14.9	44	20.4
	3世代(実娘同居)	7	4.0	13	6.0
	3世代(義娘同居)	2	1.1	7	3.2
	その他	16	9.1	24	11.1
	不明	5	2.9	2	0.9
就労	専業主婦（夫）	4	2.3	105	48.6
	フルタイム	3	1.7	15	6.9
	パート・アルバイト	6	3.4	22	10.2
	自営業	8	4.6	8	3.7
	無職	145	82.9	58	26.9
	その他	8	4.6	6	2.8
	不明	1	0.6	2	0.9
ボランティアへの参加状況	参加・関心なし	2	1.1	11	5.1
	参加なし・関心あり	41	23.4	64	29.6
	1度か2度参加あり	35	20.0	33	15.3
	不定期に何度も参加	45	25.7	44	20.4
	定期的に参加	46	26.3	56	25.9
	その他	4	2.3	3	1.4
	不明	2	1.1	5	2.3
子どもの有無	あり	166	94.9	206	95.4
	なし	7	4.0	7	3.2
	不明	2	1.1	3	1.4

営業」8 名（3.7％）、「無職」58名（26.9％）、「その他」6 名（2.8％）であった。ボランティアについては、「関心がなく、参加したことがない」11名（5.1％）、「関心はあるが参加したことはない」64名（29.6％）、「1 度か 2 度参加したことがある」33名（15.3％）、「不定期だが何度も参加した」44名（20.4％）、「定期的に参加している」56名（25.9％）、「その他」3 名（1.4％）であった。子どもの有無については、実子がいる人206名（95.4％）、いない人 7 名（3.2％）であった。

2．祖父世代と祖母世代の子育て支援全般への支援意欲

祖父世代と祖母世代で、子育て支援意欲について違いが存在するかを調べるため、祖父世代と祖母世代の 2 群に分けてカイ二乗検定を行った（Table 2）。その結果、支援意欲の各項目において、2 群間に有意な差が見られた（x^2値(2)=10.83, p<.05）。残差分析を行ったところ、「積極的に参加したい」項目および「参加したくない」項目において、祖父世代と祖母世代に差が認められた。「積極的に参加したい」という項目においては、祖母世代の方が祖父世代よりも、当てはまると回答した人の割合が有意に多かった。「参加したくない」という項目においては、祖父世代の方が回答者の割合が有意に高かった。

Table 2　子育て支援全般に対する支援意欲の、祖父世代と祖母世代の比較

	全体 (n=361)	祖父世代 (n=165)	祖母世代 (n=196)	x^2値	調整済み残差
積極的に参加したい	27	6	21		2.5 *
できる限り参加したい	133	60	73		0.2
少し参加したい	133	59	74	10.83*	0.4
参加したくない	68	40	28		2.4 *
不明	30	10	20		

各数値は人数を表す。　　*p<.05

3．子育て支援内容別の、祖父世代と祖母世代の支援意欲の比較

各支援内容の各項目に対する支援意欲について、祖父世代と祖母世代で差が見られるかを調べるため、それぞれの支援内容について独立した t 検定を行った（Table 3）。その結果、「子育ての仕方についてのアドバイス」（t(262)=-2.730, p<.01）、「子どもを預かり、一緒に遊ぶ」（t(263)=-4.323, p<.001）、「子育てについて親世代の悩み事の相談」（t(296)=-3.298, p<.01）において、祖父世代と祖母世代間で有意な差が認められた。「子育てに必要なモノの支援」（t(289)=-2.135, n.s.）、「祖父母世代文化の、子どもへの伝達」（t(283)=-.163,n.s.）、「子育てに関する知恵の伝達」（t(298)=-1.703, n.s.）、「経済的な支援」（t(297)=-.146, n.s.）においては、祖父世代と祖母世代間で有意な差は認められなかった。

4．子育て支援の際に起こりうる問題についての、祖父世代と祖母世代の比較

支援の際の問題において、祖父世代と祖母世代で差が見られるかを調べるため、それぞれの問題について独立した t 検定を行った（Table 4）。その結果、「親世代と意見が合わない」（t(355)=4.131, p<.001）において、祖父世代と祖母世代間で有意な差が認められた。「親世代とは育児方針が違う」（t(360)=1.810, n.s.）、「親世代の考えで子どもを育てるべきだ」（t(358)=

Table 3　子育て支援内容別の、祖父世代と祖母世代の支援意欲の平均及び標準偏差

	祖父世代 (n=175)		祖母世代 (n=216)		
	平均	*SD*	平均	*SD*	*t* 値
子育てアドバイス	3.38	0.85	3.64	0.79	-2.73 **
子どもと遊ぶ	3.09	1.07	3.61	0.98	-4.32 ***
モノの支援	3.04	0.95	3.29	1.06	-2.16
文化の伝達	3.98	0.79	4.00	0.84	-0.16
親の悩み相談	3.65	0.82	3.96	0.80	-3.28 **
知恵の伝達	3.73	0.87	3.90	0.84	-1.69
経済的支援	3.10	1.03	3.12	0.96	-0.14

**p<.01　***p<.001

Table 4　子育て支援の際に起こりうる問題についての、祖父世代と祖母世代の平均及び標準偏差

	祖父世代 (n=175)		祖母世代 (n=216)		
	平均	*SD*	平均	*SD*	*t* 値
親世代と育児方針が違う	3.81	0.99	3.62	0.97	1.81
親世代の考えで子育てすべき	3.52	1.12	3.31	1.09	1.80
意見を聞き入れてもらえない	3.06	0.96	2.88	0.89	1.78
親世代と意見が合わない	3.24	0.94	2.84	0.91	4.13 ***
今と昔で子育ての仕方が違う	3.74	1.03	3.60	0.99	1.32
体力に自信がない	3.39	1.15	3.42	1.24	-0.28
健康に自信がない	3.36	1.16	3.16	1.29	1.53

***p<.001

1.799, n.s.)、「意見を聞き入れてもらえない」(t(355)=1.777, n.s.)、「今と昔では子育ての仕方が違う」(t(362)=1.320, n.s.)、「子どもを預かるだけの体力に自信がない」(t(359)=-0.282, n.s.)、「子どもを預かるだけの健康に自信がない」(t(354)=1.530, n.s.)においては、祖父世代と祖母世代間で有意な差は認められなかった。

Ⅳ　考　察

1．祖父世代と祖母世代の子育て支援意欲

本研究では、現在子育てを行っている親世代に対し、祖父世代と祖母世代がそれぞれどの程度支援をしたいと考えているかを実態的に捉え、また支援意欲において祖父世代と祖母世代を比較する目的で、「祖父世代と祖母世代の子育て支援意欲」について調べた。その結果、祖父世代と祖母世代では違いが見られた。子育て支援に全面的に否定的である人の割合は、祖父世代の方が多く、また全面的に肯定的である人の割合は祖母世代の方が多い結果となった。祖父母世代の子育て支援において、祖母が活躍している事例は比較的多く報告されており（清水, 1996, 1998, 2006)、また世代間交流事業などの機会を設定すると、祖母の参加率が祖父に比べて極端に多い。こうした現状は序論でも述べたとおり、性別役割分業の確立により（大日向, 2005)、子育てを主に女性が担ってきたことを表していると考えられる。性別間で比較すると、祖母世代よりも祖父世代の方が子育て支援に消極的であった本研究の結果は、対象者に子育ては女性が行うものとする考え方が残っていると解釈できる。あるいは、自身が親世代であったとき、子育てにあまり参加していなかったために、祖父となったときに子育てにどのように関

わったらよいのか分からないという戸惑いが、支援意欲を抑制している可能性もある。

2．支援内容における祖父世代と祖母世代の比較

祖父母世代が子育て支援を行う際、祖父世代と祖母世代では、支援内容によって関わり意欲の違いが見られた。祖父世代と祖母世代で支援意欲に違いが見られたのは、子どもと直接関わる支援や、親世代に子育てのアドバイスをしたり、子育ての悩みの相談に乗ったりする支援の側面であり、祖父世代と比較して祖母世代の方がより支援に積極的であった。これらの側面は、自身が親世代であったとき主となって子育てを行ってきたかどうかが、非常に重要となる支援側面であると考えられる。親世代の悩みの相談やアドバイスの提供などは、子育てを主となって行ってきた者でなければ理解できないことも多く、また子どもを実際に預かって世話をする際にも、子育て経験がないとどのように接したらよいのか分からない、ということは当然考えられる。「子育て支援等に関する調査研究」（厚生労働省, 2003）では、子育ての相談相手の条件として「子育ての経験があること」が専門的な知識よりも多く望まれており、子育て経験者が支援者として求められている。地域内や家庭内に、子育て経験者としての支援者がいることで、「孤独な子育て」による母親の育児不安を緩和することができる（八重樫ら, 2003）。しかし、一方であまり親世代のときに子育てに関わってこなかった人でも、祖父母世代としての子育て支援への関わり方は十分に考えられる。本研究では、特に文化や知恵の伝達側面で、祖父世代と祖母世代共に、支援意欲が高い結果となった。単に親の代役としての祖父母世代の支援ではなく、祖父母世代ならではの知識や経験を活かした支援ができるという点に、祖父母世代が親世代の子育てを支援する意義がある。子育て経験が豊富な人は、それを活かしたかかわりを求め、またそれ以外の人は子育て経験以外の、自身の様々な経験を活かしたかかわりを求めていることが明らかになったため、今後はそれぞれに適した支援内容を提供できる機会を設定することが、重要になると考える。

3．支援の際の問題における祖父世代と祖母世代の比較

親世代の子育てに関わる際、祖父母世代はどのようなことが問題になると感じているか、またそれらの問題意識について、祖父世代と祖母世代でどのような違いが見られるかについて検討した。祖父世代と祖母世代で意識が異なる側面は、子育てにおいて親世代と意見が合わないと考える側面であり、祖父世代の方が祖母世代よりもより強くこの問題を感じていることが明らかになった。本研究では祖母世代の方が子育て支援に積極的である傾向が見られたが、祖父世代の支援意欲を抑制している原因のひとつに、親世代との意見の相違を祖父世代の方がより問題視している、ということが考えられる。親世代との意見の相違が、祖父母世代自身の心理的負担となったり（北村, 1999）、抑うつを引き起こしたり（宮中ら, 1995）することは報告されている。しかし、より積極的に子育てを行い、また現在も子育て支援に参加したいと考えている祖母世代よりも、祖父世代の方が問題意識が強かったことから、実際に子育てに関わる以前から「親世代とは意見が合わないもの」とする固定観念がある可能性もある。

Ⅴ　本研究の限界と今後の課題

本研究では、祖父母世代の子育て支援について、祖父母世代自身の支援意欲の実態を把握すると共に、祖父世代と祖母世代の考え方の差異を検討した。子育て支援研究の中では比較的多

くなされている祖母世代のみに焦点を当てるのではなく、男性の立場としての祖父世代をも対象にして検討できたことが、本研究の意義であったと考える。本研究では、「祖父母世代独自の支援」、「親の代わりとしての支援」、そして「物質的側面」の３側面についての支援内容の性差は明らかとなった。しかし、それ以外のより細かな支援内容についての性差、例えば祖父世代にのみ見られる支援内容などは、本研究のみでは明らかではなく、更に対象者に対して質的なアプローチが必要であると考えられる。また支援の際の問題意識についても、本研究を参考に質的なアプローチを試みる必要がある。また、本研究では支援の送り手である祖父母世代の視点のみに焦点を当てており、支援の受けてである親世代の視点が含まれていない。子育て支援の可能性を考えるためには、支援の送り手と受け手の両方向からの視点が必要であると考える。祖父世代・祖母世代の支援に対し、親世代はどのように感じているのかについて検討すべきである。祖父母世代の子育て支援を考える際、それが子育ての主体である親世代のニーズにあったものであるかを、常に把握しながら進める必要がある。また、本研究では子育て支援の受け手を血縁に限らなかったが、血縁以外の子育てに支援として関わることがまだイメージされにくいことが現状として考えられる。対象者に対し、血縁に限らない子育て支援をどう伝えていくかの配慮についても、今後工夫する必要がある。

付　記

本研究での調査は、「平成17年度世代間交流子育て支援事業」の一環である、祖父母世代と親世代の「本音トーク」のためのアンケート調査に参加させていただいたものです。調査の実施にあたっては、健やか奈良支援財団の方々にお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

引用文献

朝日新聞社　2002　お年寄りの力子育ての頼り．朝日新聞2002年8月20日朝刊号

Bowen, D. J., Andersen, M. R., & Urban, N. 2000 Volunteerism in a community-based sample of women aged 50 to 80 years. *Journal of Applied Social Psychology,* **30**, 1829-1842.

中国新聞情報文化センター　2004　子育てに関する世代間のズレについて．アンケート調査

Fischer, L. R. 1983 Transition to grandmotherships. *International Journal of Aging and Human Development,* **16**, 67-78.

Gerard, J. M., Landry, M. L. & Roe, J. G. 2006 Grandparents raising grandchildren: the role of social support in coping with caregiving challenges. *International Journal of Aging and Human Development,* **62**(4), 359-385.

Hayslip, J. B. & Goldberg,G 2000 Grandparents Raising Grandchildren: Theoretical, Empirical and Clinical Perspectives. Spring Publishing Company.

平田裕美　2003　青年期前期の子どもに対する父親の関わり－分類と特性－　家族心理学研究, **17**(1), 35-54.

飯田進・菅井正彦　2000　親の相談が示唆しているもの．子育て支援は親支援－その理念と方法－．大揚社　Pp.12-25.

神谷哲司・菊池武剋　2004　育児期家族への移行にともなう夫婦の親役割の変化　家族心理学研究，**18**(1)，29-42.

金山美知子　2005　男性の育児を促進する子育て支援の検討：地域子育て支援の利用状況調査から．上田女子短期大学紀要, 28, 93-100.
北村安樹子　1999　家族における世代間交流－祖父母にとっての孫の存在．厚生福祉, 4777, 2-5.
厚生労働省　2003　子育て支援等に関する調査研究．（株）USJ 総合研究所
Minlker, M., Fuller-Thompson, E., Miller, D. & Driver, D. 1997 Depression in grandparents raising grandchildren. *Archives of Family, Medicine,* 6, 445-452.
宮中文子・松岡知子・西田茂樹・岩脇陽子・中谷公子・中島健二　1995　中高年女性（祖母）の子育て参加の実態と心理的健康との関連について．老年社会科学, 17(1), 21-29.
内閣府　2002　平成15年度版内閣府国民生活白書.
中西美紀・岩堂美智子　2004　幼児を持つ母親の仲間関係と育児困難－内的ワーキングモデル尺度を用いて－．生活科学研究誌, 3, 107-114.
中野洋恵　2005　ジェンダーと子育て①　子どもを育てるのは女性．大日向雅美・荘厳舜哉編　子育ての環境学　実践子育て学講座 3　大修館書店　Pp.176-177.
落合恵美子　1989　育児援助と育児ネットワーク．家族研究, 1, 109-133.
大日向雅美　2005　第 4 章　子育ての変遷と今日の子育て困難．大日向雅美・荘厳舜哉編　子育ての環境学　実践子育て学講座3　大修館書店　Pp.92-112.
大日向雅美　2006　家族・地域のきずなと子育て支援．そだちの科学, 7, 144-148.
Pruchno,R.A. & McKenney,D. 2002 Psychological well-being of black and white grandmothers raising grandchildren: Examination of a two-factor model. *Journal of Gerontology,* 57(5), 444-452.
清水美知子　1996　祖父母と孫のかかわりに関する研究－「孫育て」をめぐる祖父と祖母のライフスタイル－　長寿社会研究所家庭問題研究所年報, 1, 67-80.
清水美知子　1998　母親からみた「祖父母－孫」コミュニケーションの実態－祖父母の<孫育て>をめぐって－　関西女学院短期大学研究紀要, 12, 75-87.
清水美知子　2006　シニア世代による子育て支援の実践－加古川市「にこにこオープンルーム」を事例として－　関西国際大学研究紀要, 7, 115-123.
総務省　2000　労働力調査特別調査報告　労働力調査資料第64号
須田木綿子　2003　高齢者の社会参加と世代間交流　老年精神医学雑誌, 14(7), 878-883.
高橋博子　1995　育児をめぐる世代間交流　青木和夫偏　高齢化社会の世代間交流　長寿社会開発センター, Pp.84-115.
武田信子　2002　「私であること」と子育て環境　社会で子どもを育てる－子育て支援都市トロントの発想－　平凡社新書 Pp.111-140.
八重樫牧子・江草安彦・李　永喜・小河孝則・渡邊貴子　2003　祖父母の子育て参加が母親の子育てに与える影響　川崎医療福祉学会誌, 13(2), 233-245.